

令和元年度斑鳩町協働のまちづくり活動提案事業

広めよう！ 聖徳太子を偲ぶ「和のあかり」

NPO法人斑鳩文化協議会「和のあかり」プロジェクトチーム

斑鳩 聖徳太子和(わ)く和(わ)くプラン

斑鳩町の現状と課題

- 「聖徳太子」「法隆寺」の認知度は高いが、「斑鳩町」の認知度はまだまだ低い。
- 法隆寺周辺以外は、「聖徳太子」「和」の雰囲気を感じない。
- 聖徳太子の歴史は子どもには少々難しい
→ファミリー層に人気がない。



課題解消のために・・・

2021年（1400年御遠忌）に向けて、「聖徳太子のまち・斑鳩町」をアピールし、「聖徳太子」と「和」を感じるまちづくりをすすめる。

「斑鳩 聖徳太子和く和くプラン」の内容

和のあかりプロジェクト

(町職員から住民へ)

- 法隆寺周辺で「和のあかり」を灯して、聖徳太子を偲ぶとともに、1400年御遠忌を、住民のみならず、みなさんに認識してもらう。

住民・住民団体の参加

町内の学校・幼稚園・保育園・住民団体など

斑鳩ブランド創造協議会による 観光産業の振興

(商工会・斑鳩町協働)

- 斑鳩産をブランドとして売り出す。
(新たな体験プログラムや、フード、グッズなど)

聖徳太子1400年御遠忌事業

(町事業)

- マルシェ・ホテル・駐車場複合施設の誘致
- 外国人観光客へのおもてなし向上 など

世界文化遺産と聖徳太子に スポットをあてたPR

(世界文化遺産連携会・斑鳩プロジェクトチーム)

- 斑鳩町観光協会・官学連携校・民間団体等と連携し、それぞれの特性を生かしたPR
 - 新たな外国語版パンフレット・HPなどの制作
 - 東京での連続講座 など

聖徳太子ゆかりの自治体との連携

- 奈良県とのまちづくり協定にもとづく事業
- 聖徳太子の里ツーデーウォーク など

NPO法人斑鳩文化協議会「和のあかり」プロジェクトチーム 活動提案事業の内容

- 聖徳太子和く和くプランのひとつである「和のあかり」プロジェクトの一部を住民と行政の協働で行う。
- 「和のあかり」プロジェクトに込められた思い
 - 聖徳太子の町、斑鳩町に住んでいることは、故郷の「誇り」です。
 - ①聖徳太子の「和の精神」でここ斑鳩の平和を守り、住みよい町でありつづけたい
 - ②聖徳太子の町、斑鳩町に住む責任とこの地の豊かさに感謝し「和のあかり」プロジェクトを通して「和の精神」を大勢の人とともに育みたい
 - ③単なる住民としてここ斑鳩町に籍を置くのではなく、聖徳太子の町、斑鳩町の住民として、世界に誇れるこの故郷の創造者の1人となることを目指していきたい
- 住民と行政が信頼しあい互いに力を発揮しあう協働の姿は、令和の時代にふさわしい新しい地域の在りようだと思います。自分たちが本当に「誇り」に思える斑鳩町にしていこう、そのために私たちに何ができるのか、ひとりの力は小さいけれど、それぞれの人が自分にできる一隅を照らしたら・・・たくさんのひとの聖徳太子を想う和のあかりが灯されたら。それは、令和の時代にふさわしい素晴らしい素晴らしい聖徳太子1400年御遠忌になると信じて。

実施行程

- 4月20日 大阪府太子町「太子聖燈会」視察
- 5月18日 「太子聖燈会」についての聞き取り
- 5月20日 なら燈花会に学ぶ会
- 8月～ 協賛募集開始
- 10月30日 第1回「和のあかり」プロジェクト
ミーティング 於：生き生きプラザ斑鳩
- 11月7日 第2回「和のあかり」プロジェクト
ミーティング 於：生き生きプラザ斑鳩
- 11月10日 ワークショップチラシ作成開始
- 12月18日 ワークショップチラシ配布
- 1月18日 ワークショップ開催
西里公民館 三町会館 東公民館
- 1月28日 ワークショップ開催
西公民館 並松公民館 中央公民館
- 1月28日 燈籠組み立て講習会
於：中央公民館
- 2月15日 ワークショップ開催
西里公民館 三町会館 中央公民館
- 2月25日 ワークショップ開催
東公民館 並松公民館 生き生きプラザ斑鳩
- 3月8日 ワークショップ開催
西里公民館（午前・午後）三町会館
- 2月8日・17日 ワークショップ開催
ZADAN
- 2月10日 ワークショップ開催
錦が丘自治会館
- 2月23日 ワークショップ開催
子ども食堂
- 2月27日 ワークショップ開催
東里集会所
- 2月27日第3回「和のあかり」プロジェクト
ミーティング 於：生き生きプラザ斑鳩
- 3月9日～3月21日 燈籠和紙貼り
- 3月21日（お会式お逮夜）
斑鳩町主催「和のあかり」（延期）

「聖霊院」で行われる「お会式」について

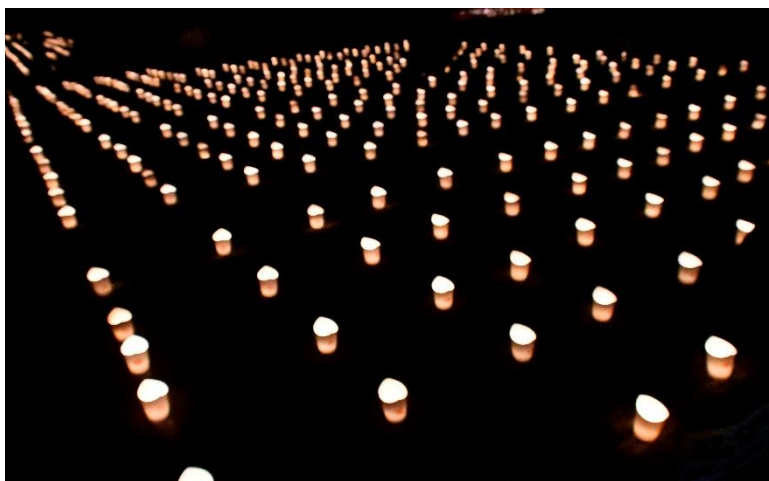
- 「お会式」は、聖徳太子の命日に毎年行われる御忌法要である。聖徳太子は推古天皇29年（621）2月22日に斑鳩宮で亡くなった（日本書紀）と伝えられている。
- そしてその命日に聖徳太子の御忌法要「お会式」が聖霊院で行われてきた。「お会式」は明治43年までは2月22日に行われていたが、翌年からは新暦で3月22日から24日の三日間行われることとなった。「お会式」は「聖霊会」から発展したものとされている。「お会式」の法要は、まず3月21日の夕刻から聖霊院にて「お逮夜法要」が行われる。逮夜とは、葬儀、あるいは祥月命日前夜をさし、22日からの「お会式」に先駆けて行われる法要が「お逮夜法要」である。「お逮夜法要」では寺僧たちが唱和する唄、散華の声明に合わせて南都楽所が楽奏し、導師は聖徳太子講式を奉読する。つづいて解脱上人貞慶の作と伝える九首からなる太子和讃が唱和される。聖徳太子命日前夜の夕刻より執り行われる「お逮夜法要」はまことに幽玄であり、南都楽所の楽奏と僧侶の声明が響く中、法要が営まれ、亡き太子を偲ぶ。
（斑鳩町歴史的風致維持向上計画より抜粋）
- そのお逮夜に「和のあかり」を灯して聖徳太子を想い、偲ぼうと、開催日程を3月21日に決定しました。

活動内容①大阪府太子町「太子聖燈会」の視察

4月20日18時～21時 参加者：10名

聖徳太子の「和」の精神を尊び、太子町を訪れる人々の幸せを願うあかりが魅力あるまちづくりとまちの活性化につながってほしい。そんな、太子町を愛する地域の人々の思いで始まった太子聖燈会（たいししょうとうえ）です

聖徳太子が眠る叡福寺を中心に年々会場が広がり、1万燈の灯火（ともしび）が町を彩ります。



叡福寺



大阪府太子町「太子聖燈会」の視察



後日、太子町の住民のかたより当日の準備などについて、いろいろお話を聞きました。

プロジェクションマッピング



西方院

プロジェクションマッピングとは・・・

建築物など立体物の表面にプロジェクターで映像を投影する手法。
英語で『投影』を意味するプロジェクションと『位置づける』を意味するマッピングを組み合わせた造語。

活動内容②なら燈花会に学ぶ会



1300年前に都として栄えた奈良。広大な自然の中に古代日本のおもかげが今も残る。そんな奈良にふさわしい、どこか懐かしさを感じ、心を癒してくれるろうそくのやさしい灯り。

「なら燈花会」はゆったりと時の流れる世界遺産の地、奈良に集う人々の祈りをろうそくの灯りで照らし出します。

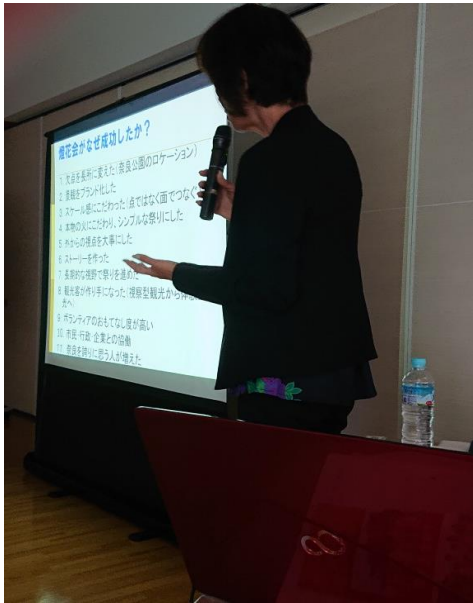
1999年に誕生した「なら燈花会」。古都奈良にろうそくの灯りがとけ込み、人々の心にさまざまな感動を与えてきました。

夏のたった10日間だけ、広大な奈良の緑と歴史の中にろうそくの花が咲きます。

「燈花」とは、灯心の先にできる花の形のかたまり。これができると縁起が良いと言われていいます。

「なら燈花会」を訪れた人々が幸せになりますように。そんな願いを込めてろうそく一つ一つに灯りがともされます。

観光カリスマ 朝廣佳子氏をお招きして ～なら燈花会のあゆみと観光効果～



朝廣佳子氏プロフィール（国土交通省 観光庁HPより）

（株）読売奈良ライフ代表取締役

2000年 なら燈花会の会会長

『奈良らしさ』を追求し、『なら燈花会』を成功に
導いたカリスマ

5月20日13時30分～15時30分

於：生き生きプラザ斑鳩2階会議室

参加者：48名

ボランティアの協力による市民主体のイベントとして地域に根づかせるとともに多くの来訪者を呼び寄せることができる奈良の夏の一大イベントに成長させることに貢献。『奈良県地域づくりアドバイザー』としてもご活躍されており、地域にかける情熱は非常に熱い。

このイベントの特徴はボランティアが運営に携わっていること、周辺施設、近隣自治会、県や市の協力を獲得し地域一帯が運営に関わる参加型のイベントとして成功していることである。

なら燈花会の成り立ちや観光に役立てる仕組みづくりも学びました。

活動内容③和のあかりづくり

【募集方法】

- 和のあかりワークショップチラシの作成
- 広報で周知する
- 斑鳩町内の公共施設へチラシ配置
- 協力事業所さまにチラシを設置していただく
- ワークショップ参加の働きかけ

公民館自主グループ（中央・東・西公民館約170グループ）、小地域福社会、民生委員、地域婦人会、地域老人会、住民団体などへチラシ配布と参加のお願いに
をする)

- ワークショップ参加説明会を開催し参加者を募る
- 当協議会ホームページへの掲載
- フリー冊子に掲載

地道に募集活動を続け、12月18日からチラシ配布をし、2月末には、参加申し込みが400基に達したので、募集を終了する。

和のあかりづくり ～ワークショップ～

- 「和のあかり」ワークショップを20回開催する。
- 185基
- 己書講師の指導により、絵や書を描いてもらう。
- 1枚：聖徳太子シルエットに色を塗る。
- 1枚：「和のあかり」と書く。
- 2枚：思い思いのものを描く。



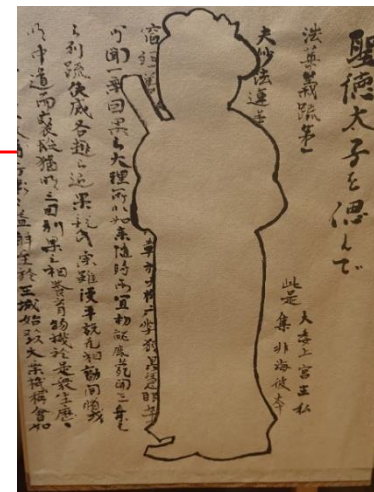
和のあかりづくり ～ワークショップ～



和のあかりづくり

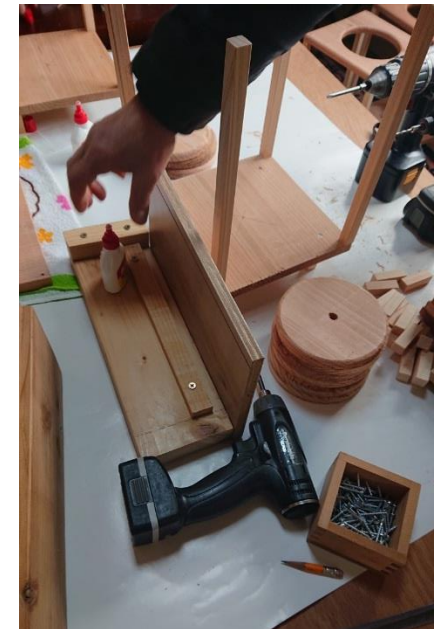
ご自宅で水彩画、切り絵、はり絵、
水墨画、書道など自由に聖徳太子を
偲ぶ気持ちを表現たものを作成してもら

208基



和のあかりづくり ～燈籠組み立て～

- ○燈籠組み立てボランティアの募集
- 燈籠組み立て講習会を開催しました。於：中央公民館
- 11名+1団体のかたがボランティアで燈籠の組み立てをしてくださいました。



和のあかりづくり ～燈籠貼り～



ワークショップ、灯籠貼りなどのボランティアに延べ86名のかたが協力してくださいました。

担当課との連携

- 和のあかりプロジェクトミーティングへの出席
- 広報にワークショップのご案内などの掲載
- 関係課等との調整
- LEDライトの購入
- 職員のワークショップへの参加依頼と参加

事業の実施効果

和のあかりプロジェクトを開催するにあたり、以下について考えました。

1「住民力」が醸成されます

異世代、異業種の交流を通して参加者の社会参画意識と郷土愛を高めることができる。

- ・自分たちが住む地域を「自分たちで創造する」「自分たちで活性化する」という意識の啓発が行える
- ・住民が主体となり、企業や行政と連携する新しいイベントのモデルとして、その仕組みを構築することができる
- ・幼稚園児、小中学生、高校生、大学生が参加することにより、社会経験や情操・郷土愛教育の機会をつくることができる
- ・異世代の交流による新たなコミュニティをつくることができ、高齢者や障害をもつ人の社会参画意識の向上と喜びのきっかけづくりにもなる

2「観光」に貢献できます

斑鳩町の歴史文化を背景にし、世界遺産法隆寺にふさわしい美しく芸術性の高いものを目指します

- ・夜の斑鳩町の新たな景観を創出することができる
- ・見るだけでなく、和のあかりの制作を通して参加する楽しみも含め、来場者に参加・体験型の演出を行い、ファミリーで楽しんでいただくことができる
- ・夜のイベントとして宿泊・滞在型の観光客の増加につなげることができる

事業の実施の効果～まとめ～

○事業の実施を振り返り

- ・2021年が聖徳太子御遠忌1400年であることを町内外の人に少しは知ってもらうことができた。
- ・最初、地域によっての関心度にかなりひらきがあったが、ワークショップ会場も西地域から東地域までの公民館を利用したので、町内広範囲にわたって参加を募ることができ、バランスよく広範囲の住民に参加していただけた。
- ・1月18日からワークショップが始まり、3月15日締切までに393基できたことは、地道に口コミでコツコツと1日も休まずお声かけをし、活動しつづけた成果だと思う。
- ・4月当初は「和のあかり」に対する理解を得ることがかなり厳しい状況が続きましたが、いろんな方々のシビアなご意見に誠実に耳を傾け、改善に改善を繰り返し、練り直し、試作に試作を重ねているうちに、賛同くださるかたも増え、協賛金も想定以上に集まり、また、よい出会いが数珠つなぎで広がった。
- ・和の精神の素晴らしさを実感しました。
- ・ワークショップには、4歳から91歳までの参加があった。また、ファミリー参加も数家族あった。
- ・聖徳太子を思いながら、聖徳太子シルエットに色を塗る作業から始めたワークショップは、それぞれの人の聖徳太子への思いが込められた燈籠になった。
- ・素晴らしい企画やからぜひ続けてほしいとの声もいただいた。
- ・20回ものワークショップすべて和気あいあいとした雰囲気の中、皆さんが聖徳太子を偲ぶという気持ちひとつに作成した燈籠は、唯一無二のどれもが素敵なものに仕上がりました
- ・短期間にボランティアさんも含め、400名を越える方々のご縁、そのどなたもが賛同の気持ちで参加くださったことは最大の効果でした。時には厳しいご意見もいただいたが、活動を継続し、次回2021年の本番に繋げることができたと思う。

このプロジェクトは、「聖徳太子のまち斑鳩町」を住民も意識でき、対外的にもアピールできる事業であり、「聖徳太子」と「和」を感じるまちづくりを行政と住民が協働で進めることのできる新しいスタイルの事業である。

課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大の第2波への警戒もあり、活動は自粛を余儀なくされており、ワークショップの開催の予定は現時点では未定である。
- 2021年の御遠忌の年には、コロナ対策を万全とした「和のあかり」が開催できるように行政と引き続き連携し、協働で検討していくことが最大の課題である。
- また、実現のためには、町議会議員、県議会議員の方々のご理解とご協力、さらに賛同してくださるかたを増やすこと、県との連携、また協賛金などによる資金調達・・・などが必然の課題である。

終わりに・・・

- ご協力いただきました皆様へ

和のあかりに賛同し、灯籠づくりに参加してくださり心から御礼申し上げます。

また、灯籠組み立て、ワークショップ、灯籠貼りなどのボランティアの皆様にも感謝申し上げます。コロナウイルス拡散防止のために「和のあかり」は延期となり、本当に残念でしたが、作成いただきました灯籠は、ひとつひとつ段ボール箱に入れて次回開催まで、空き家を無償提供していただきました場所にて、大切にお預かりさせていただいています。

- 2021年御遠忌の年に「和のあかり」が開催できることを祈念しております。
- 本当にありがとうございました。

- 追記：

- 今回町主催の「和のあかり」は延期となりましたが、有志の方々のお力をお借りしまして、作成していただきました「和のあかり」を龍田神社、斑鳩神社にて灯させていただきました。
- このような時期に「和を以て尊しとなす」を唱えた聖徳太子のおひざもとでコロナの収束を願い、平和を祈念してのあかりを灯すことができたことは奇跡の一日となりました。
- 心から感謝申し上げます。

ありがとうございました



斑鳩町 担当課からのコメント

NPO法人斑鳩文化協議会「和のあかり」プロジェクトチーム様と協働ですすめることで、町の「和のあかりプロジェクト」を、聖徳太子の「和」の心に想いをはせる町内一斉ムーブメントとして、浸透させることができたと考えております。

団体内で事業内容の検討や資金調達、地域住民へのワークショップ参加の働きかけやさまざまな調整を熱心にしていただき、短い期間にもかかわらず、ボランティアの方を含め約400名の方が活動にご賛同いただくなど、住民の皆さまの気運の高まりを感じることができました。

NPO法人斑鳩文化協議会「和のあかり」プロジェクトチーム様の活動に感謝を申し上げ、斑鳩町独自の歴史・文化を守り、次世代に引き継いでいく取組みとして、聖徳太子1400年御遠忌にむけて、次年度以降も当課と協働し、活動を継続していただきたいと思っております。

斑鳩町総務部まちづくり政策課